

【書く・なぞる】俳句 種田山頭火 三

いつも人の世が遠くなる 日暮れかな

山をのぼり 山をくだり 草を食う

ふるさとは 遠きによりて 思ふもの

吹かれつつ しづかに歩いて いる

何を求めるでもなく 風が吹く